

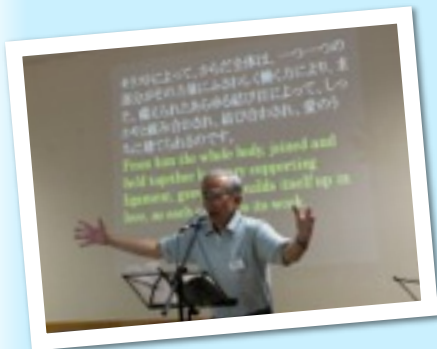
第27回

ヨーロッパ キリスト者の集い

証と感想



「Transformation～主に造りかえられる」の恵み



まず、この集会のテーマが良く祈られ、よく考えられたものであった。今の時代の教会、キリスト者にとって、もっとも重要な問題だと感じている。また、そのテーマのもとに一つの集会において、ふさわしい題が与えられ、それぞれの賜物と経験のある説教者や証者が、主の御霊の導きの中で主のみことばを語ってくださったことは、本当に主の恵みでありました。

そして、幼少科、中高生科も大きな恵みをいただいて、賛美などを通して私たちにその恵みを伝えてくださいました。私は2001年のリヨンの集会に出席しましたが、その時にお会いした兄弟姉妹と再会できたこと、またその時にはまだ集会や教会がなかった国や都市かた来られた兄弟姉妹と新しい出会いが与えられたことを感謝致します。

けれども、牧会者のいない群れが多くあることを改めて知り、「収穫は多いが働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」（マタイ9章37～38節）のみことばを思い起こしました。

ヨーロッパの教会の成長と福音の前進のためにお祈りしています。

浦和福音自由教会 坂野慧吉

sakakei@hb.tp1.jp



「ふたりの自分とイエス・キリスト」

4日間続いたマドリッド大会（7月29日-8月1日）に無事参加できて感謝しています。ストックホルムからは少し遠方のため出席が危ぶまれていましたが、やはり無理してでも出席して良かったと思っております。諸先生の説教、講演を聞き、ヨーロッパ各地から集まった兄弟姉妹達と交わりができて喜ぶものです。



私にとっては7月31日（土）の夕拝と賛美の時間は大変に恵まれました。特に内村伸乃牧師の説教に励まされました。テーマ「ふたりの自分とイエス・キリスト」は私にぴったりでした。15歳にして故郷浜松でスウェーデン宣教師に導かれて入信しました。決して楽で何の問題も無く順調に行った信仰生活ではありませんでした。よく失敗したものでした。私の足を引っ張って横道にそれるように働きかける別の自分がいたからです。もう一人の自分は例え困難であっても自分に与えられた信仰の道をコツコツと歩いていこうとする自分でした。

そして、この両者の間には常に戦いがあったのです。しかし、良き信仰の先輩に励まされて今日に到りました。大それたことを考えずに、イエスを仰ぎつつ与えられた勤めを、平凡であっても忠実に果たして行きたいと願って止みません。

中村衛

ストックホルム日本語聖書会
m.nakamura@bredband.net

ゴスペルワークショップを通して、体験させていただいた恵み



ゴスペルはエネルギッシュで楽しそう！というイメージがあり、是非とも体験してみたいと思って参加しました。今回、さよさん（先生とは呼ばないという約束です）の指導のもと歌ってみて知ったのは、ゴスペルは神さまに向うものだったということです。

音楽も、言葉も、感謝も、全部神様に！と何度もリマインドされました。歌う言葉のメッセージにも力がありますが、神様に向うこと自体が、ゴスペルのエネルギーの源であり、ゴスペルを歌うという事は、神に向って祈りや願いが寄せられる場、喜びや慰めを受け取る場になるのだと感じました。

集いの開会礼拝で、ピヒカラ先生は、「私達は朝一番に、まず自分の心に福音を語る必要があります」とおっしゃっていましたが、ゴスペルを歌うことは、私にとって正に、私の心に福音を語る経験でした。歌詞の言葉の意味に「ああ、その通りです（アーメン）」と心あわせて、祈り、願い、また、喜び、叫ぶ時、私の心が喜びや慰めを受けていました。

”we need you, Jesus!” “You are Good!” 「主の恵み いつくしみ とこしえに！」 繰り返し、繰り返し、私の心に語りた言葉でした。

更にゴスペルは自分の心に語るだけでなく、聞く方たちにも語りかけることをコンサートで歌うことで体験しました。指導の中で、「誰かを意識して、その人に語りかけるように！」と言われたとき、直ぐに何人かの顔が思い浮かび、その一人一人に、そして私自身にも語りかけるように、”you don't have to worry...For there's a friend named Jesus. My(your) life is in His hands.というメッセージを心から発していました。





コンサートが終わり、「えーもう終わり？もっと歌いたい」と思って舞台を降りた時に気が付いたのですが、ワークショップ&コンサートの現場は、励ましや感謝、愛でいっぱいでした。短期間でコンサートに向けて練習していると、疲れたり、うまくできなくてあせったりもしますが、そんな時の笑顔や助け合いは、御言葉の生きた形だったと今思います。「イエスと一緒にならば、私達は乗越えることができ、立ち上がることができる」

ルと共に歌った仲間に、聞き

最後に今回のゴスペルワークショップのために主からビジョンを与えられた方々に、祈りつつ備えてくださった方々に、労してくださった方々に、ゴスペルにいらしてくださった方々すべてに心から感謝いたします。全てを可能になされた方の名は、JESUS！あなたの御名を讃美します。

横尾共子

オランダ日本語キリスト教会
tomoko45kitty@hotmail.com

欧州各地に住む日本人キリスト者の姿に感動しました。

今回、初めて「ヨーロッパ・キリスト者の集い」に参加させていただきました。マドリード空港に着いた時、何人かの知り合いを見つけて、とても嬉しかったです。会場に向うバスの中では、イエスさまを愛している20代の若者と、人生について、また牧師召命（しょうめい）についても話し合うことができ、とても幸いでした。青年大会では、その元気な若者を目の当たりにして、さらに喜びの心で私は満たされました。若者たちの中から、フルタイムでの献身者も起こされることをお祈りします。

もう一つの印象に残ったことは、ヨーロッパ各地に、散らされて生きる日本人の兄弟姉妹の証でした。たとえ小人数であっても、集る場所まで2、3時間かかっても、みことばに飢え渴きをもって、月に一回でも集まり、一緒に聖書を読み、主を礼拝しておられることを聞いて、深く感動し、主の御名を讃美いたしました。スイスのNLの読者に一筆書き送ろうとしていると、黙示録3:8思い浮かんできました。



「わたし（主）は、あなたの行ないを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」

この聖句はフィラデルフィアの教会への約束です。そのまま個人的に当てはめられる約束ではありません。しかし、忠実な小さい集まりに当てはめることができるのではないかと思います。

主にありて、
ハンスウエリ・ゲルスタ
スイス日本語福音キリスト教会
gersterhansueli@omf.net

恵まれた4日間

マドリードでの神様の恵みを覚えて感謝致します。特に今回は主催のマドリード集会に加えて、それ以外の多くの方々も力を合わせて作り上げられた、という印象を持ちました。それがONE PEACE という（もう一つの）テーマとも重なり、ヨーロッパキリスト者の集いは皆で作り上げるものだという面を思わせられました。

2年前に今回の講演のテーマが「聖め」と伺った際には「どこまで具体的なことに踏み込めるだろうか」と思いましたが、実際には共通する信仰の原点を確認し、「誰でもキリストの内にあるなら、その人は新しく造られた者です。」という主の恵みを確認する場になったと思います。語ってくださった先生方は勿論ですが工藤さんを中心とした賛美チームが大会を一貫して霊的な方向へと導いてくださったと思います。

個人的には特別講師の坂野先生と同室になれたことが特権であり大きな恵みでありました。吉川さんご夫妻とキビニエミ・ハンナさんに心から感謝致します。

安藤廣之
ミュンヘン聖書の会
gihigugmakoadios@yahoo.co.jp

Lord , You are Good all the time !!

集いの通信をいただくと、毎年思いを巡らせます。参加すればその間中、素晴らしい恵みと祝福をいただくことは、もう100%保証(主によって!) ずみ。その上で、主は今年も私の思いを遥かに超える祝福のサプライズをたくさん、備えてくださいました。

先生がたのお話、スタッフのかたがたのご奉仕、祈り、賛美、すべてを通して、主に心を開き、まっすぐに向かい合うこと、自らをかえりみることに導かれたことは、素晴らしい恵みでした。

特に今年は、主催者のかたがたが続けてこられた準備の長い道のりのうちに、彼らがつねに変わらず持ち続けた主への愛と絶対的な信頼に対し主が与えてくださる特別の祝福、主ご自身がはたらかれたみ跡が現れていたと感じています。

日々の忙しさの中、とかく事務やその他のことに追われる中においても、主催者のかたがたがそれぞれの「心」に細やかに寄り添い、ケアすることを大切に

にしてくださり、教

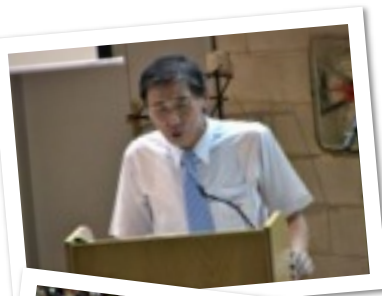
会の悩みや問題についてともに祈り、励ましてくださいました。会期中はスモールグループでも同様の恵みをいただき、ふだんは離れていても近い家族として交わりが持てたことは、本当に素晴らしい祝福でした。主よ、ありがとうございます。

こうして集いの前、会期中、はかりしれない恵みと祝福をいただいて帰ってきた今、主にみこころのままに「造りかえられる」ことを望み、期待する思いが私の中に起こされていることに気づかされています。それぞれの中に今も生きてはたらかれている主に感謝し、このよいかたのみ名を心からほめたたえます。

梅澤里子

オランダJCF

usatoko33@gmail.com



私の”修養会”はまだ終わっていません。

今回のテーマ「TRANSFORMATION～主に造りかえられる」は私個人にとってもタイムリーなテーマでした。私たちの最大の願いは、多くの同胞の救いです。といいながら、どうして隣の人にさえ、福音を伝えるのが難しいのでしょうか。なぜ、伝道に怠惰なのでしょう。宣教にパワーがないのでしょうか。環境や組織や、条件のせいではありません。

私自身が主に造りかえられていないためでしょう。私にとって、修養会はまだ終わっていません。今回も各先生が、深い祈りをもって準備され、重要なメッセージを私たちに伝えてくださいました。

録音を繰り返し聴いて、この機会に深めていけたらと思っています。本当に重要なテーマを取り上げてくださったマドリードの主催者に感謝いたします。そして、常に、私たち一人一人に、成長の機会を与えてくださる主に感謝します。

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会

k.hara@gmx.de

第27回『ヨーロッパ・キリスト者の集い』参加雑感

主の不思議なお導きにより、家内と共に「第27回ヨーロッパ・キリスト者の集い」に参加させていただけた事を非常に感謝しております。集会在最初から最後まで、非常にすばらしい会場と宿舎が用意され、また、スケジュールが非常にスムーズに進み、主催者の役員の皆様の非常に大きな努力と、豊かな経験から出た『行き届いた準備』をなされた事に心から感謝とお礼を紙面をお借りして申し上げます。集会中の主の御働きの大きかったことを重ねて感謝申し上げます。



在日中に参列させていただいた日基教団名古屋中央教会の（前任の）S牧師が、以前にスイスで日本人伝道宣教師をされておられ、その様子を度々、伺っていました。思えば大昔、1964年から4年間、私は田舎牧師として、家内は宣教師として岡山県で御用をさせていただき、68年にスウェーデンへ移住し、結婚して家庭を持ちました。

その後、家内は病院で助産婦として、私は大学で雑役を得て、何とか生活してきましたが、スウェーデンの教会ではずっとレイマンとして奉仕をさせて頂きました。その後、子育ても終わり、1993年に再び日本の大学へ転任し、2007年に退職して、スウェーデンへ再び戻って来ました。



それ以降、ずっと邦人伝道への祈りと構想を練っていました。スウェーデン在住の日本人も高齢化により、案外に孤独な生活の中に閉じ籠もっている人が多く、また、面倒くさいスウェーデン語を忘れてしまった方もおられて、何としても日本語が通じる人々との交流が重要であると思います。最近、訪れた日本人は、「死ぬ前に『おしるこ』や『おはぎ』が食べたいよ」、とか、「やはり、お正月には、お餅が食べたいなあ」とか言っておられました。

最近スウェーデン政府の移民政策の変更（予算削減）により、移民団体の活動に助成金の支給が中止され、一時は非常に盛んだった「日本人会」も（大変失礼ながら！）現在では消滅寸前の状態であり、今、ここに改めて日本人への宣教と日本語での人物交流の輪を広げる重要性を感知しております。主の御名による「小さな集い」でも、祈りと信仰と希望により、より大きく広げて行きたいと主に願望する次第です。敬愛する主にある兄弟姉妹の皆様！どうぞ、当地に住む、滅び行く魂が、主の御手により一人でも多く救われますように、ぜひ、御加祈してください！ ***

延岡 繁

ストックホルム聖書会

nobuoka@comhem.se

キリスト者の集いに参加して

今回のキリスト者の集いの開催地は、スペイン・マドリッド。暑さと治安の悪さを散々聞かされて、多少不安を抱えての出発。でも行きの飛行機で、ご近所のスイス人と会い、スペイン人の旦那様からレクチャーを受け、スペインへの期待をかなり膨らませて、いざマドリッドへ到着！

古い修道院を想像していたけれど、着いてみたらなかなか近代的な建物で、外にはプールもあり、友達と再会した娘はいっきにテンションが上がる！空港からの車中でランチを済ませていたにもかかわらず、到着がスペインのランチタイム前で、朝5時起き私達には何度目の食事になるのかも分からずにテーブルへ座り、早速話が盛り上がる。あ〜キリスト者の集いへ帰ってきたと実感！



沢山の交わり、素晴らしいスペイン観光、美味しい食事の全てに感謝だったけれど、一番心に響いたのは、やはり主の御言葉。31日の夕拝のメッセージは、ローマ7：14-25「私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行っているからです」は、まさに私への主からの御言葉。主に日々造りかえられる必要性を改めて知らされました。スモールグループでの交わりも貴重な時間でした。少ない人数での実行委員にもかかわらず、全くそんな事を感じさせない素晴らしい集いでした。沢山主からの恵みと祝福をいただいて、本当に感謝しています。どうも有難うございました。

ヘス明美
スイス日本語福音キリスト教会
hess.handa@sunrise.ch



民族音楽家にとっての“修養会”



今年第27ヨーロッパキリスト者の集いはマドリッド日本語で聖書を読む会によって主催されました。2010年7月28日から8月1日までスペインマドリッドエルエスコリアル市で順調におこなわれました。毎回修養会申込の時、妻はいつもように「今年も参加しつづけますか」と尋ねました。「毎年の修養会は、私が常に体と心も豊かに恵まれ、ヨーロッパの日本人キリスト者にとって、交わり、主催国でいくつかの観光ツアーもできるし、修養会はどんな短期海外休暇にもかえられません。」とわたしは返事しました。

今年のテーマは「Transformation-主に造りかえられる」です。複数の日本牧師と外国宣教師から「心の健康-羊飼いの心-羊のこころ」、「健康な教会」、「救いと聖め-救いは一瞬、聖めはプロセス」、「主の愛」、「どうしたら聖くなる」、「日が暮れるまで怒ったままではいけません」、「ふたりの自分とイエスキリスト」、「聖潔にすすみなさい」、「たましいの安らぎへ疲れたキリストしゃのために」という説教をききとり、また幾つかの宣教師と兄弟の証しとわかちあいをいただきました。私は今回テーマの内容についてより深く解るようになりました。本当にすばらしい一時でした。

分科会は昨年のように年齢と性別によって28組にわかれ、二回のスモールグループをおこないました。分科回はリーダーとサブリーダーかつかさどりながら、各メンバーは修養会のメッセージの中に自分の体験や感動やうけとった啓示などから自由にわかちあいました。そして修養会の説教は牧師から信徒への一方通行ではなく、信徒たちの側から説教内容への反応をメンバーの間でお互いかわちあい、テーマに関してのみことばをさらに理解することかできました。



民族音楽家としての私は今回の修養会に大山小夜子さんの指導によるゴスペルクワイアのAfro-Americanスタイルの民族音楽讃美コンサートに深い興味をもちました。この音楽のメロディーや和声や楽団の伴奏などは今まで教会のものとは異なっています。クワイアは比較的現代的であり讃美歌を踊りたり、叫んだりしながら歌います。ナイジェリアのAmos Obasakan 牧師の solo によって黒人の Spiritual Songの特色を十分に味わうことができました。



私は詩篇の「神の聖所で十弦の琴と豎琴をかなでて、タンバリンと踊りをもって、おごとと笛と音高く鳴り響くシンバルで神をほめたたえよ」などみことばを思い出されました。実際には真心を込めて神にほめたたえすれば、いかなる楽器でも、音楽スタイルでも、発声技巧でも神様が必ず受け入れくださるとわたしは確信しています。このような試みを教会という場所できどぎ行われるとしたら、すばらしいのではないのでしょうか。

本来はヨーロッパ日本語教会は欧州大陸に散在しています。各教会は普段は自分の問題だけを重要視する傾向があり、他の教会の事は殆ど気にかからないようです。毎回の修養会ですべてのヨーロッパ日本語教会のビジョンをわかちあい、ヨーロッパ日本語教会全体をまとめる一つの大きな教会の観念が生み出されました。教会間に互いへの関心を産むことができるようになります。

五日間の修養会に青年会の開会礼拝から最後の日曜礼拝まで、食事や宿泊や事務、そしてエルエスコリアルとセゴビアとマドリッド三ヶ所への観光ツアーが順調に行なわれました。たった四人の実行委員が熱心に準備され、完璧に用意して下さいました、心から感謝いたします。もう一度、霊的にも肉体にも満ち足りた修養会を与えられた神様に有り難い気持ち一杯になりました。

鄭瑞貞

パリ・プロテスタント日本語教会
scheng5057@yahoo.co.jp

集い@マドリッドがくれたもの

僕にとっては毎年の集いがユニークな成長の場になっています。8年ほど前には一参加者でしたが、ほぼ毎年参加するにつれ、色々なお手伝いを通して主催者側に近くなってきたような気がします。もちろん先生方のメッセージや、力強い賛美、新しい方々との素晴らしい出会いは楽しみです。でも「皆さんがどれだけ多くの実りを受け取ってくれるか」がウェイトを占めてくるようになりました。

特に今回は、備え大会の準備、ホームページ、写真係、ビデオ係、コンピューター関係、会場設置、託児、といろいろさせていただきました。結果として、せっかくのメッセージや証が聞けなかったりしました。併せて自分の娘たちの面倒も見なければならぬので、夜を徹して若い方々と交わりを深めることもできませんでした。時々「奉仕疲れには気をつけて」と言う心の声が聞こえてくることもありました。「安くはない参加費を払っているのに、なんでこんなことをしているのだろう？」という人間的な思いも、時々頭をかすめます。

でも、終わってみるといつも気づかされます。分かってはいたのですが、いつも再確認させられます。「自分が何かを与えていた」と少しでも思ったのはあやまりで、実際は「与えていた以上の物を絶えず与えられていた」ということを。今回のマドリッドでの集いも例外ではありませんでした。ここでは言い尽くせないほどたくさんのお見えない恵みをいただきました。永遠の命を与えてくださった神様は、まだまだプレゼントを隠し持っているようです。これからも仕えることによってそれを発見して行く人生が、また楽しみになって来ました。



今回の集いのキーワードを勝手に付けさせていたけるなら、個人的には「奉仕」となります。始めから終わりまで、本当にたくさんの方々の献身的な奉仕によって今回の集いは実現し、まさに「一つの体」を体現できる貴重な時となりました。ハンナさん、吉川さん、フェルナンドさん、そしてその他大勢の奉仕者の皆さん、本当にありがとうございました。また来年、ケンブリッジでお会いしましょう。

増谷啓

シュトゥットガルト日本語教会
akira@grad.com



”救いの確実さ”

今回初めて欧州キリスト者の集いに参加いたしました。メッセージやスモールグループそして賛美を通して多くの恵みを頂きました。私も家族もとても楽しく過ごす事ができ、そして励まされました。

個人的には特に救いの確実さ、すなわち信じた時に必ず救われているということがメッセンジャーの先生方から異口同音に語られたことが大きな励みでした。また、スモールグループでも同じような年齢層、そして境遇にいらっしゃる主の兄弟といろいろと分かち合うことができて良かったです。

集いの間に子供が発熱したり、怪我をしたりしましたが、下山姉や吉川夫妻を始め多くのみなさまに助けて頂き、プログラムに全て参加できたことも感謝です。

準備をしてくださった実行委員のみなさま、そして集いを祝福してくださった神様に感謝です。

城野健一

ロンドンJCF

tomotomo.jono1974@gmail.com

作田銀也氏の提案に関連して思うこと

今回、パリ教会の一員として、マドリッドの「ヨーロッパ・キリスト者の集い」に参加させていただき、各国に「散って寄留して」おられる主にある兄弟姉妹たちとお会いできたことを心から感謝しています。人数は少なくとも、多くの困難があっても各地の群れがそれぞれに協力し、主を中心とした礼拝と交わりを保っておられる姿に励まされました。また「集い」での各先生方のメッセージにも、兄弟たちの賛美や証にも大きなチャレンジを受けました。

特に7月30日夜の集会でパリ教会の作田銀也兄によるヨーロッパにある教会の協力体制についての提案には大きな感銘を受けました。時間的な制約から、その詳細の説明をお聞きすることができませんでしたが、私には「これは神様からのビジョンでありチャレンジに違いないのでは・・・！」と思えました。その後の「代表者会議」でもきっと、そのテーマについて話し合われたのではないかと考えていますが、ずっと私の頭から離れることなく私はそれ以来、この提案を一つのはっきりとした「祈りの課題」として受け止めています。



「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。」（エペソ書 4：5）とありますが、日本国内においてはどうしても教団、教派の枠が「キリストのからだ」である教会の一致を妨げている現状を否めません。それぞれの特質、賜物の違いを尊重しながらも「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。」（エペソ書 4：2-4）とあるように

信仰の一致、御霊にある一致がヨーロッパの一角から一步一步と実現されることを心から願っています。

高橋 稔

（松本聖書福音教会・牧師）

m_38tak_19@ybb.ne.jp



Take Me Back

♪ Take me back, Take me back dear Lord to the place where I first received you.
Take me back, Take me back dear Lord where I first believed. ♪

このゴスペルの歌詞がここ数ヶ月の間ずっと頭から離れませんでした。どうしてか？その答えは簡単です。自分の方から主からどんどんと遠ざかり離れていっている事を自覚していたからです。この自覚は主を知る前の私は持ち合わせていませんでした。だからこの自覚を持てたということは感謝なことだと思っています。ただ、この自覚は自分で自分を責める大きな力となり私にこう語りかけてきていました。『お前には無理だ。もうあきらめて今の場所からとっとと逃げろ。』

自分で自分を責める思いは、他人と自分との比較となりました。人の行動に目がいくようになったのです。『あの人のようなクリスチャンになる為にはどうしたらいいのか？あしななければ。こうしなければ。。。』というように、行いで自分を義人化しようとしていました。

聖書に『義人はいない、一人もない。』と書いてあります。私は自分ではどうしても出来ない事に精神と時間を費やし、ぶどうの木であられる主に連なっていないと良い実を結ぶ事は決して出来ない事をすっかり忘れていました。ヨーロッパキリスト者の集いで多くの先生方から解き明かしを聞き、それに気付かされ、自分がいかに高慢な人間であるかを示されました。この自分の高慢を示されたのはもう何回目でしょうか？私が高慢で居続けないように、いつも忍耐し、教え続けて下さる主に感謝します。



冒頭のゴスペルの歌詞ですが、今本当に思われます。『神様、私はあなたを探し求め始めたとき、自分の馬鹿さ加減にいやという程うんざりしていました。あなたの事を少しずつ知っていくごとに、そもそも自分で何とかしようと思うところ、高慢の罪であることも教えてくださいました。その事を認めて心から悔い改めたはずでした。だからあなたの赦しを心から感謝しあなたを信じますと告白したのです。でもどうでしょう。私はそれでも飽き足らずに同じ事を何度も繰り返しています。神様、私をもう一度あの心から悔い改めたところに戻してください。アーメン。』

ムラー
悦子

フランクフルト日本語福音キリスト教会
omgs@gmx.de

「わたしは今も生きてお前のそばにいるよ」

近年になく、静まることの出来た、よい集会でした。感謝しております。「集い」に参加する少し前にアモス8：11から、示されるものがある、「みことばの飢饉」ではなく「主のことばを聞くことのききん」だと仰せられるみことばについて考えさせられておりました。



今年の「集い」は、暑いマドリッド、と聞いて二の足を踏んでいた所、フランクフルトのメンバーが「今ならチケットも安く手に入るし、私たちも行くのですから行きましょう！」とのお誘いもあり、大分前にチケットを手に入れ、参加を決めたのも早かったのは、不思議なことでした。「車だったら・・・」といつまでも未練がましく思っていたのですが、若いお二人が私たち老体を引っ張ってくださったお陰で、参加することが出来ました。どこに行っても「虫に好かれる」私は、電気蚊取りもしっかり持って参加させていただきました。出かける前に、「あなたがこのように参加できる道を備えて下さったのですから、しっかりあなたのみ声をお聞かせ下さい！」と、例によって主を脅迫するような祈りを以って参加させていただきました。

今回のテーマである「新しく造られる」のテーマに添って語られた先生方の赤裸々なお話から、未だ未だ主は、こんな私をもお見捨てにならず、「わたしは今も生きてお前のそばにいるよ」と、励ましを受けたような思いです。ご自分を新しく造り変えて下さった！と、お証し下さった方々の中に、主の御手の業を拝して、心が熱くされました。私をこの集いに見えざる御手を以ってお導き下さった主に心から感謝しつつ。♪み手の中で 全ては変る感謝と賛美に！ み神の時の流れの中で！！♪

田辺みや子
フランクフルト日本語福音キリスト教会
miyako3@gmx.de

マドリッド大会に参加して

昨年はこの10年間ずっと参加していたキリスト者の集いに行きませんでした。色んな理由はありましたがその一つは「信仰疲れ」でした。

一年に一度友達と会う事を楽しみにしている子供達からは凄いブーイングを受け、一年間責め続けられましたので、今年は「何としてもスペインへ行かなければならない。」子供との約束履行が一番の目的、そんな思いでこの大会を迎えました。

しかしながら、大会最初の講演から聴く事全てが自分にとって必要な言葉ばかりでした。その中でも特に坂野先生が講演で語ってくださった「三位一体」について、「主に造りかえられる」「自分の中の何が変わらなければならない、何を変えなくていいのか。」は本当に自分自身が思い違いをしている、あるいは思い込んでいる状態であった事を神様の光のもとで照らされる良い機会となりました。また、今大会では自分が音楽を学んだ者であり、信仰者であるのに今まで心から賛美を捧げてこなかった事を思い、賛美チームに加えて頂きました。敬愛する工藤篤子さん、内村まり子さんをはじめ賛美を心から捧げていらっしゃる方々と捧げる賛美は本当に至福の時でした。

私は主にどのように造りかえられて行くのでしょうか？喜びと期待で一杯です。なぜなら、神様は私を造って下さり、私の全てを知っておられ、私を愛してくださっているからです。

最後になりましたが、この大会のために非常な労苦を負って下さいましたマドリッド日本語で聖書を読む会の皆様、子供達の救いのために暑い中動き回って下さいました。井野葉由美先生、岡田英津子先生、朴有里さん、錚々たるメンバーで難しい年頃の若者の友となって下さいました中高科の先生、リーダーの皆様、その他大勢のご奉仕のお

一人お一人に改めて感謝申し上げます。主の豊かな報いがあります様にお祈り致します。

今村葉子
スイス日本語福音キリスト教会
yimamura0105@gmail.com

聖いものへの憧れ、、でも、遅い!?

第27回ヨーロッパキリスト者の集い」は、暑い、熱い修養会でした。北欧Nordkapの旅から戻ったあくる日に灼熱のマドリッドに降り立ちました。熱気の中、240名が主を讃え、祈り、みことばに耳を傾けました。先生方の口を通して語られた、講演、メッセージは、どれも、人間らしく生きてゆくために欠かせない叡智に満ちており、拝聴できたことを本当に感謝いたします。



人間は、皆生まれながらに 聖いものに憧れていると思います。その憧れをどのように自分のものにしてゆくのか、そのためのヒントを沢山頂きました。高齢者になる直前にこういうテーマに遭遇して本当に良かったです。はじめは、「若者向け」のテーマか、と思っておりました。わたしには、もう遅すぎるなどと思っていました。



聖化される人生を歩むには、神の思いを自分の中心に据えて、神の視点で人を見、物事を見、神が忌み嫌うことをわたしも拒む、善の道を主と共に歩もう、みことばを糧として体験しながら、毎日生きよう、という、明るい未来への指針が示された集いでした。

毎回、苛立った食堂の騒音すら、今はマドリッド修養会の思い出の一コマです。観光スポットも大変よかったです。プロの日本語のガイドさんの説明がいろんな興味を掻き立ててくれました。天正の少年使節の目に、あの巨大な城はどう映ったことでしょうか。

アンダルシアのオブショナツアーも少人数でとても楽しかったです。今までほとんど無関心だったイベリア半島、スペインの歴史に興味が沸きました。

準備くださった実行委員の方々、少人数でありながら、素晴らしいプログラムをありがとうございました。御奉仕下さった方々一人お一人に心よりお礼申し上げます。ゴスペルも讃美も主が非常にお喜びになったと思うものばかりでした。特に小さなお子さんと大人の方々が一緒に笑顔で楽しく舞台上で、ゴスペルを歌って主を讃美されているのを見たとき、ジーンと心に浸み込むものがありました。まぶたが熱くなりました。暑い、熱い「集い」に心より感謝申し上げます。

Fredrich 希與子
北ドイツJCF
fdmurakami@hotmail.com

WIEN 教会です。

ハレルヤ
全てのプログラムに主のご臨在を感じ、
豊かな御恵みに感謝しております！

lirico_chikako@yahoo.co.jp



来年も、再来年も、毎年ずっと来るからね～！



読者の皆さまこんにちは！今年の修養会も例年に劣らずものすごい祝福に溢れていて、まるで祝福でできたボールが私と言うゴールに思いっきりシュートされたような、強烈な霊の満たしをいただきました。特に今年の修養会では二つの大きな大きな恵みを得ました。ここでは2番目に印象深かったことをお話しします。1番の証は「バルセロナ日本語で聖書を読む会」の月報に書きますので、ご興味のあるかたはこちら (<http://barcelona-seisho.com>) から月報8月号をご覧ください。

私の娘は今、華の14歳。正しい 思春期を滑走していて、「教会嫌い。聖書なんて何のために読むのよ？」というコメントは日常茶飯事。今では現地の教会にもかなりサボりが多くなりました。集いにも「行かない」とずっと断り続けられていたのですが、「中高生会はとっても楽しいから」と今年は強引に引きずって行き参加しました。

そして本大会が始まり、中高生が集まると、そこには彼女が今まで経験したこともないような国際的な楽しさと、日本人学校では出会えなかった、ハーフの彼女の悩みを深く理解してくれる友人たちとの出会いがありました。

瞬時にして娘は中高生会にハマり、同室の私でも滅多に姿を見かけないほど皆と一緒に行動を楽しんで、舞台でも元気に讃美をするほど活動にも熱心になっていました。しかしあっという間に集いは終わり、彼女は仲間たちに「来年も、再来年も、毎年ずっと来るからね～！」と確約してお別れしたのです。別れた後は「集いがずっと続けばいいのに」とか、「あの頃に戻りたい」と毎日呟いています。



私の今年の目標は『娘が修養会のだいご味を知ること』でしたから、まずは目標達成です。これはまさに、中高生会のリーダーを引き受けてくださった青年会の皆さんと、メンバーの皆さんのお陰です。本当に有難うございます！

来年以降の目標は『娘が神様に会うこと』です。これについては、今年の集いを終えた直後から娘がスタートした中高生会の友人たちとのFacebookやメール交換の中で、会話の流れから聖書を一緒に読むことになっていたり、「祈ってるからね」と励まされたりして、既に少しずつ達成の兆しが現れています。

親にとって、家族全員が主にある真の家族になることほど大きな幸せはありません。この場をお借りして、神様と、関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。そして今後とも娘（泉紀・みずぎ）をどうぞ宜しくお願いします！

下山由紀子
バルセロナ日本語で聖書を読む会
yukikoshimoyama@gmail.com

嫌々ながら参加した“集い”

私が最後に”ヨーロッパ・キリスト者の集い”に行ったのは3年前のミラノ集会で、まだそのころはCSに参加していませんでした。CSでは私が最年長で、ひときわ背も高く、私の国からの参加者もなく、少しなじめない部分がありました。



そのため、翌年はもう中高科だったものの、絶対CSと同じだろうと思いきや、そのまた翌年も行かずと今年までヨーロッパキリスト者の集いに、はっきり言って全く興味がありませんでした。が、今年のまさかのスペインでの開催により、嫌々ながらも参加した中高生科はCSとは全く違って、私と同じ境遇の人や海外に住んでのいい所や悪い所が共に分かち合え、さらに神様のことをより一層学ぶことができました。

他にも中高生科ならではのゲームや会話をし、本当に楽しめ、なぜ去年は行かなかったのだろうと今激しく後悔しています。これからはできれば毎年行ければいいなと思っています、中高生科の皆さんと奉仕者の方々に感謝申し上げます。

下山泉紀

バルセロナ

mizuki.jp.cristina@gmail.com



エルエスコリアル サン・ロレンソ修道院（世界遺産）

2度目の集い参加でしたが、前回同様な人との出会いと交わり、そして皆と神様を賛美し、礼拝することに集中する数日間は、とても満たされる時間でした。聖化は一瞬のできごとではなく変えられ続ける必要があること、そして聖化されるのは、決して私たち自身のためではなく、神様の栄光のためということに、そうだな、と心から思いました。

また前回も感じたことですが、信仰生活を送る様々な世代の方と接することは、大きな刺激と励ましがあります。神様と歩むそれぞれの背景と証を思うとき、神様の業の大きさを改めて感じました。

山田真理子 チェコ プラハ・コピリシ教会

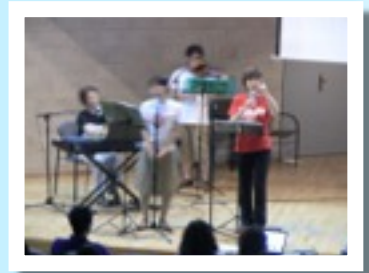
私たちの最終目的は,,



マドリッド大会は、御霊のご臨在に溢れた素晴らしい大会でした！たくさんの労を取ってくださったハンナさんと吉川さん、ほんとうにご苦勞様、そしてありがとうございました！お二人とは、メールのやり取りのほかに、何度かスカイプで話し合いをさせていただきましたが、いつも変わらぬ柔和で優しい対応（直前になっても、そして大会中も）、適切な判断、適切な対応をしてくださいました。

きっと、人には言えないご苦勞がたくさんあったと思いますが、すべてを主に委ね、大会の準備を4本の細腕で着々と進めておられるお姿は、それはそれは麗しく、私は深く学ばされるものがありました。また、フェルナンドさんも、ガリシア人特有の温厚な気質の方で、いつも笑顔と信仰をもって対応していただき、ほんとにありがとうございました！フェルナンドさんの愛嬌溢れる日本語を、また聞きたいです。

共に賛美を捧げてくださった賛美チームと有志メンバーの皆さん、ほんとうにありがとうございました！あんなに素晴らしいチームを主が与えてくださるとは、大会が始まる前までは想像だにしていなかったもので、最初の練習の第一声を聴いて、感動で心が震えました。大会に備えて、時間をかけて譜読みの準備をして来ていただき、また、力不十分な私のリードに文句も言わずに付いて来てくださいましたこと、心からありがとうございます！特に、陰の支え人、パワーポッターこと桂子さんに、また、PAのTimさん、仰さんに、心から心から感謝しています！



相棒賛美コーディネーターのまり子さん、今年も一緒に奉仕させていただくことができ、感謝でした！どちらが何を、と打ち合わせすることもなく、自然と互いに補う合う形で奉仕させていただける人は、そう多くいるものではありません。そして今年も、私は、まり子さんの主への純粋な生き方、仕える姿勢から多くのことを学ばせていただきました。ほんとうにありがとうございました！

小夜さん、札幌から来てくださって、ありがとうございました！17年前から、札幌のコンサートでは何度も伴奏していただき、OVIG ([Sayo's Information](#)) を導き、昨年グレイン・ミュージック Sapporo Japan (Sapporo Japan が付いているのが、同郷人としてすごくうれしいです！札幌から、日本から、福音を世界に向けて発信して行く、という意味ですよ) を立ち上げ、主は今年、何と、マドリッドまで導いてくださいましたね。私たちの目をイエス様に向けさせる、軸がぶれない素晴らしいコンサートを、ほんとうにありがとうございました！また札幌でお会い出来るのを楽しみにしています。



大会でメッセージを語ってくださった先生方に、心からお礼申し上げます！素晴らしいメッセージでした。あんなに深く、そしてまっすぐにみことばを解き明かしてくださった欧州在住の先生方、そして日本から来てくださった坂野先生、ピヒカラ先生を誇りに思っています。

まり子さんと私は、かなり前から賛美プログラムを組み始めていたのですが、先生方のメッセージテーマとメッセージ後の希望曲をいただいた時、メッセージが、私たちが想像していたよりはるかに靈的な内容であることを悟らされ（あたり前ですが）、賛美プログラムを何度も組み直すことになりました。今データを数えてみると、まり子さんと私の間を、3月から大会直前まで、賛美のたたき台が17回に渡って飛び交いました。それは、私にとって実に楽しいトランスフォーメーションの時でもありました。



CSの先生たち、CS奉仕の皆さん、ほんとうにご苦勞様でした！大会で一番感動したのは、子供たちの賛美でした。私も、幼子のように純粋な心をもって主を賛美する者でありたいと、心から思われました。

最後に、私が、今回の大会で一番深く学んだこと、それは、私たちの最終目的は天国ではなく、神のご栄光が現されるということでした。そして、一番心に植え付けられたたまごばは、ヨハネ15:5「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」でした。何度も何度も聞いて、そのように生きたい、そのように生きるべきと思ってきたたまごばですが、今回、また新たな響きをもって心に語られました。これからも主があえてお許しになる圧迫や試練を通して、主に造りかえられながら、このたまごばが、私の中に実現して行くのだと思います。それが、主にあって新しくされた者の特権であり、主と共に歩ませていただく人生の醍醐味であるのだと思っています。

皆さんの祝福を心から祈り、再会の時を楽しみにしつつ
主に心から感謝して

工藤篤子

ak_akmm@atsukokudomm.com

古い殻を打ち破って霊を解放される神

ドイツ在住の今井です。2006年4月から転勤で神戸からドイツ南部のStuttgartに駐在しています。現在、家内と二人で暮らしています。2人の息子達は、すでに独立。昨年と一昨年に孫が一人ずつ与えられました。OpaとOmaになりました。(ドイツ語でお爺ちゃん、おばあちゃん) 現在、私達夫婦は、地元のInternational Baptist教会で、多くの異なった国籍(約30ヶ国)のクリスチャンの方々と主日礼拝を守り、又、Stuttgart日本語教会で兄弟姉妹との聖書の学び等、主にある交わりに支えられて生活しております。

今回、欧州キリスト者の集いに家内と初めて導かれたことを主に感謝します。修養会テーマの「Transformation主に造りかえられる」のプログラムが多くの方の背後の祈りとご奉仕によって進められ、すべてが「恵み」と感謝でした。特に、賛美によって聖霊が豊かに私の内に働かれ、み言葉を通して神様のこと深く知ることが出来ました。賛美の中、何度も涙が止まらず、赦されている恵みを主に感謝しました。



楽譜も読めないのに自由時間のゴスペルワークショップにも加えて頂き、ゴスペルに初チャレンジ。コンサートでは皆さんの軽やかなテンポが遅れながらも楽しく主を賛美する体験をしました。賛美歌と聖歌に慣れ親しんでいましたが、神様は色々な方法で古い殻を打ち破って霊を解放して下さることを学びました。恵みを妨害していたのは私の内側にある頑固さ、固定観念でした。

今回の恵みを体験しただけで終わるのでは無く、学んだことを日々の祈りに付け加えたいと思います。

- 1, 聖めはパウロであり、聖霊の働きを確信して義と変えられますように祈りもとめる。
- 2, 2011年のロンドンでの集いにすべての時間、環境が赦され、家内と共に参加できるように祈る。
- 3, 日々、神様から示されたことを謙遜に行い、神様から目を離さず、ゆるがない土台の上に築かれる信仰を求めつつ、次回主題であります「クリスチャンの生活」について祈る。

これからも欧州に在住されておられる方々と主にある交わりを深め、互いに励ましあい、共にみ言葉に養われて、成長して行きたいと願っております。

今回の集會に参加されましたお一人お一人をイエス様の愛で心から愛します。

今井 朗

International Baptist教会(Stuttgart)

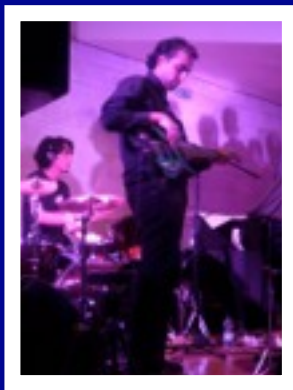
sd2053akira@yahoo.co.jp

It was the Lord who was with us.

My experience was unforgettable. The first time I set foot in that place I felt strange, I felt like I was in Japan and I have never been there.

Some people thought I was Japanese, they spoke to me in Japanese and I did not understand a word, it was kind of funny.

Then I met Sayo. I had never met a person like her so nice, charismatic, contagious joy, and so dedicated to her work. It was a privilege to work with her to the Lord before, during and after the concert.



The rehearsals were very intense but they were worth it and I felt good working with Japanese people who were so nice with us. Also I met people from different countries like England,

Belgium, Italy, etc.

I was so excited about the concert because this experience is new for me; I am just starting in music so imagine what I could feel.

When I was playing I felt something different in the atmosphere I knew it was the Lord who was with us and I am very thankful to the Lord for giving me this opportunity to serve.

In the end, the concert was awesome I had so much fun. There were moments of happiness, moments to dance, to sing, to think and of course to praise our Lord in different ways.

Thank you so much for showing us the video of the concert.

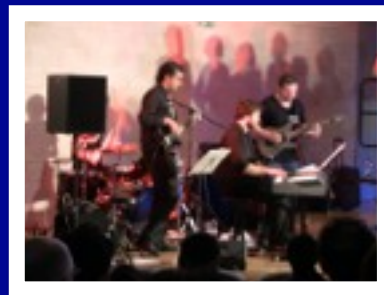
Yours Sincerely
Edmar
Dramer
thestranger_09@hotmail.com

One of my greatest blessing,

When I was 9 years old I started to be interested in music. Then, when I was 12, I started studying piano. At 14 I started playing bass and when I was 15 I was introduced in gospel music although I didn't play the bass until I was 19.

I'm telling all this history in order to explain that I've been nearly 10 years involved in several ways in gospel music but what I lived these three days was absolutely overwhelming.

I have no words to define that. Sayo, all the Japanese people, the other band guys, Fernando, Yuki... The love and support I received is something I never had expected, not in such quality and quantity.



I'm not overreacting if I say that this time with you has been one of my greatest blessings in my whole life. I really think that heaven will be an eternal concert like what we did on Saturday in spite of technically we weren't as good as the Lord deserves.

I'm sure that in this heaven Sayo will be the main pianist and band conductor. My words are not enough to express how big is my gratitude to you all for asking me help. I went to give my all to you and I found myself receiving much more, just in God's style.

I finish this little speech saying again thank you, thank you, thank you, gracias, merci, obrigado, thanke, and, of course, DOMO ARIGATO.

We will see each other again soon

Alberto González
Bass
playeralbertito_glez@hotmail.com

あなたたちは僕の人生にとって大きな祝福でした。

Es muy difícil transmitir al 100% en palabras lo que significó para mi vida compartir con vosotros ese fin de semana, pues a veces no hay suficientes palabras para expresar lo vivido, lo sentido, lo palpado, lo absorbido, solo se podría definir de una forma, “el sacrificio altruista de Jesús en la cruz”, aun hoy sigue en mis retinas cada momento vivido allí, y lo verdaderamente trascendental, fue observar la interacción de todos, pues nuestras culturas son tan distintas, como si un profundo abismo las separara, pero hubo un gran puente entre ambas, y fue “el amor incomparable de Jesús”, todos tras la misma misión, “id por el mundo y predicad el evangelio a toda criatura”, obviamente, el idioma fue una barrera que quiso poner freno a lo que allí se gestaba, pero aun así, era tremendo que con solo una mirada sabíamos en quien confiábamos, pues él nos unió, pues él nos llevó a compartir ese momento, pues en Jesús, no hay limitaciones.

A través de este medio quiero dirigirme a todos los que participaron en el coro: Mis Hermanos, os amo con amor del Señor, habeis sido una gran bendición en mi vida, os llevaré en mi corazón por siempre, y si por cuestiones de la vida, que es plan de Dios, no nos vemos aquí, estoy seguro que en el cielo, nos veremos cuando moremos en la casa de nuestro padre, Amigos, hermanos, que la paz de nuestro señor Jesucristo sea con vosotros, “Dios Bendiga al pueblo Japonés” y…gambarimasho!!!!!!

Atte Adrian A, Velázquez.
adrianencontacto@gmail.com

集いで皆さんと共に過ごしたことが僕にとってどれほどの意味をもっているかを100%言葉にするのはとても難しいです。

体験したこと、感じたこと、心に触れたこと、吸収したことを十分に表現できる単語は見当たらないもので、往々にして「十字架の主が私達のためになさった」という形でしか言えないものですから。

今日になってもなお、僕の眼には集いでの一瞬一瞬が見えます。中でも強烈だったのは、参加者が相互に与えあった影響です。僕たちの文化は皆さんの文化とは深い溝で隔てられているように違いますが、

その違う文化の上に「比類のない主の愛」という大きな橋がかかっている、参加者全員が「全世界に出て行って福音を述べ伝えよ」という同じ使命に立っていました。

もちろん言葉の壁はある種のブレーキをかけていましたが、それでもちょっと視線が合うだけで、私達が誰を信頼しているのかが明確に伝わり、

私達は彼によってひとつとなり、彼に導かれてあの日々を分かち合うことを許され、主イエスには限界がないと感じました。

この紙面をお借りして、ゴスペルコーラスの皆さんに今こう伝えたいです。「僕の兄弟たち、主の愛によって僕は君たちを心から愛しています。あなたたちは僕の人生にとって大きな祝福でした。今後も未永くあなたたちのことを心に思い続けることでしょう。人生の展開は神のみぞ知るものですが、ここでの再会が許されなければ神の国の父の家で、きっと再会しましょう！友人であり兄弟である皆さんに、主の平安がありますように、また「神が日本を祝福してくださるように」そして・・・ガンバリマシヨウ！

心をこめて、 アドリアン・A・ベラスケス
メルアド；adrianencontacto@gmail.com
ギターリストのアドリアンさんは、黒シャツの人です。

(翻訳：下山由紀子)



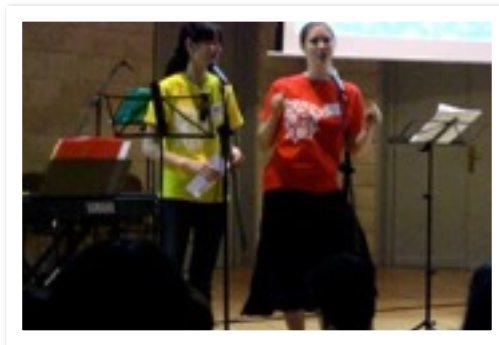
マドリッドの集いの実行委員会の恵み

実行委員長 キビニエミ・ハンナ

マドリッドでの夏の集いの企画をするときに、いろいろな困難、そしてそれをはるかに上回る神様の恵みを体験しました。そのいくつかをご紹介します。

代わりの現地奉仕者が与えられる

2007年ミラノの集いで2010年の開催国を決定するときに、なかなか候補が挙がりませんでした。最後に名乗り出たのは、高木陽子伝道師と私でした。小さな群れなので企画が大変なことを承知でしたが、マドリッドにいる日本人にもこの集いを通して伝道したいという思いがあり、エルエスコリアル幅広くて安い施設のことを知っており、お祈りして決めました。当時は集いの6ヶ月前に高木伝道師が幼稚園の先生の仕事をやめて集中的に集いの準備をするということを考えていました。また、そのとき、私のフィンランド帰国もまだ決まっていませんでした。



ところが、スペイン永住のはずの高木伝道師は日本のご家族の重病のため2009年4月にお祈りし、悩んだあと、日本に帰る決心をされました。すべてをご存知である神様は、2007年にマドリッドに吉川祥永姉とご主人のフェルナンド・メンデズ・エルミダ兄を送ってくださっていました。お二人は「マドリッド日本語で聖書を読む会」の世話人になってくださり、マドリッド集い主催の志を受け継いでくださいました。そして、大学の研究員であったフェルナンド兄は、いつマドリッドを出るか分からない状

態から、非常に難しい公務員試験に受かって定職が与えられ、マドリッドに永住する道が開かれました！また、吉川姉も看護婦の仕事が与えられました。そして、高木伝道師は日本から祈りの奉仕、吉川姉とフェルナンド兄が現地奉仕者となって働く、私はフィンランドから準備奉仕という態勢が出来上がりました。また、吉川姉とフェルナンド兄のもっている伝道ビジョンを通して、ゴスペル・ワークショップ、コンサートの企画ということが集いに追加されました。

よい安い施設が与えられる

カトリックの施設がプロテスタントのクリスチャンに施設を貸してくださったことは、スペインではめずらしいことです。また、修道士である施設長が好意を持ってくださり、一番よいお値段を出してくださいました。そこで、参加費を非常に安く抑えることができました。感謝！

奉仕者が与えられる

マドリッドの群れでは人手が足りないので、施設と大人のプログラムの準備だけしかできないということを説明すると、備え大会、賛美、幼小科、中高科という大きな分野、またその他、多くの分野をヨーロッパのいろんな日本語教会の国の方が、計画から、奉仕者募集、しおり作成、プログラム実行まで受け取ってくださり、1・2年前から奉仕してくださいました。本当に感謝です。これを通して、多くの兄弟姉妹の方々のサポートや愛を受けただけではなく、よいネットワークとお友達とことができました。感謝

2011年 第28回 ヨーロッパ・キリスト者の集いは、2011年8月4日から7日まで、英国 Wyboston Lakes Conference Centerで、「クリスチャンの生き方」エペソ4：1をテーマとして開催されます。

定員減少を乗り越える

第一信を送る直前、施設から300人の宿泊人数を260人に減らしてほしいという連絡がありました。実行委員会ではびっくりしましたが、お祈りして、経済的なことを数えなおし、なんとかなるだろうということで、みなさんに連絡しました。その後、もう一度定員を240名に減らされました。しかし、申込書が届くと、参加者がちょうど240人であることが分かり、主に感謝しています。部屋が足りなくて来れなかった人は一人もおらず、空き部屋も一室だけになりました！感謝。

人間関係が守られる

忙しく、ストレスがたまるとき、クリスチャンの働き人の間でいざこざがありがちです。しかし、個人的に一番の恵みは吉川姉と私がSkypeで毎週何回もお祈りし会議をもっているときに、二人の友情が守られ、疲れたときも楽しくジョークを飛ばしながら企画できたことです。

また、私の職場であるHelsinki Vineyard教会の牧師も役員も集いのことをよく分かってくれ、お祈りの中でサポートしてくださいました。日本語を話さない私の主人も集いの大切さをよく分かってくれ、お祈りをしてくれながら、子供たちの世話もよくしてくれました。感謝！

「主のすばらしさを味わい、これを見つめよ。

幸いなことよ。彼に身を避ける者は。」

詩篇34編8節

すべてを守り、導いてくださった偉大な主に心から感謝します。マドリードの集いのためにお祈りをしてくださった方々、ご奉仕をしてくださった方々、励ましのメッセージを送ってくださった方々、当日温かい言葉をかけてくださった方々、心から感謝します。

マドリード日本語で聖書を読む会
フェルナンド・メンデズ・エルミダ
吉川 祥永



第27回 ヨーロッパ キリスト者の集いの記録がYoutubeにアップロードされました。いずれも5-9分くらいのビデオに編集されています。下のURLをクリックご覧ください。

集い全般の様子：<http://www.youtube.com/watch?v=0VYe3TR-hmY&feature=channel>

中高生科の様子：<http://www.youtube.com/watch?v=y0I1kLjIXHU&feature=channel>

子供たちの様子：<http://www.youtube.com/watch?v=l0pbq08SUUE&feature=channel>

ゴスペルの様子：<http://www.youtube.com/watch?v=ZjpFdokOaLc>

マドリードの集いの写真集も、シュトゥットガルト集会の増谷兄のご厚意でまとめられました。ダウンロードも可能です。

備え大会：<http://picasaweb.google.co.jp/a83688/100728?>

[authkey=Gv1sRgCJjipLqQ0dnWOQ&feat=directlink](http://picasaweb.google.co.jp/a83688/2010?authkey=Gv1sRgCJjipLqQ0dnWOQ&feat=directlink)

本大会：<http://picasaweb.google.co.jp/a83688/2010?authkey=Gv1sRgCMjg9Yqax6yF4gE&feat=directlink>



みことば瞑想

8月8日のピリピ一章からのメッセージの中で、夫は「自行中心的な祈りに気を付けましょう」と警告しました。そのような自己中心的な祈りを、どのようにして避ける事ができるのかを考えていたとき、「主の祈り」が思い浮かんで来ました。ですから、これからの「みことば瞑想」の中で、その祈りを少しずつ考えていきたいと思えます。

マタイ6. 9「天にいます、私たちの父よ。」とあるように、祈り始める前に、どなたの御前に出ていて、どなたに祈るかを考えるのは大切です「主は天にその王座を堅く立て、その王国はすべてを統べ治める。」詩篇103. 19

天にいらっしゃる神様はどんに偉大なお方でしょう！ コリー・テンボーム（「隠れ家」という本を書いたオランダ人クリチャン）がこう言いました。「天には、パニックがありません！」なぜかという、神様がすべてをご存知で、すべてを見て、完全な知恵と正義を持ってすべてを支配しておられるからです。

*でも私たちのように、みじめで罪深い者が、いと高き方に近づいて祈ってもいいですか。「私たちはこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができます。」（エペソ3. 12）

*でも天にいらっしゃる方であれば、遠くて、遠くて、私たちの小さな問題や心配事、願いなどに関心があるかしら。天ですべてを治めておられる偉大な方が、私たちのお父様だとイエス様が教えられました。親しい呼び方「お父さん」と使ってほしいということです！同じ詩篇103が、このお父様の心も表しています（8節－18節までをご覧ください）。

祈る前に、祈りはキリスト者にとってどんな特権であるか、そして神様の力、その知恵と愛を覚えたら、神様を崇め、神様に感謝をささげるしかありません。詩篇100. 4に書いてあるように「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。」ではありませんか！

神様の素晴らしさを意識することを通して、正しい見方が与えられ、祈る確信を得ることが出来ます。マタイ6. 9の中に「私たち」と書いてあるように、私たちが神様の家族のメンバーになって、全世界の多くの兄弟姉妹も同じように天のお父さんと結ばれていることを覚えると、その交わりにあってキリスト者たちは強められ、喜びに満たされます。

たった七つの単語ですが、「天にいます私たちの父よ」の意味をまずゆっくり味わって、祈り始めましょう。
(NL9月号につづく) ゲルスタ・ウエンディ

